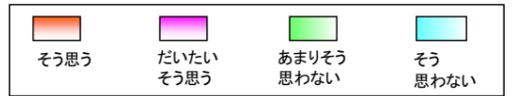


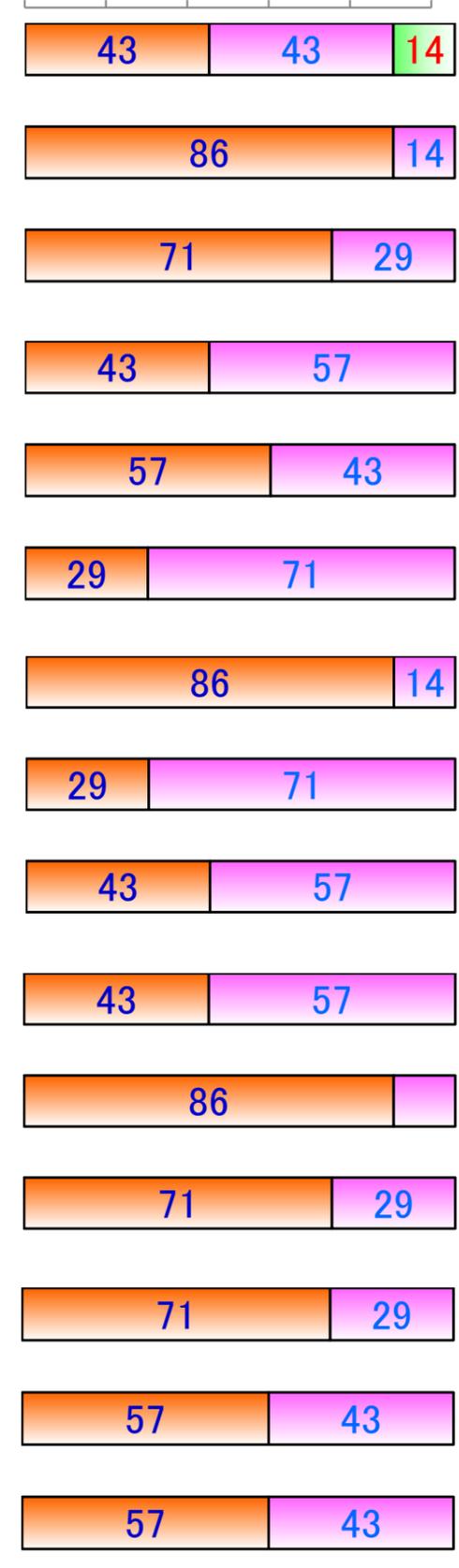
令和7年度 学校関係者評価「評価委員による評価」

様式6

	評価項目	評価結果	評価結果				平均
			A	B	C	D	
信頼される 教育の確立	1 安全管理 危機管理	安全を全てに優先させ、危険予知・未然防止、安全管理・危機管理を徹底し、安全で安心な学校生活を保障する。	3	3	1	0	5.6 79.6
	2 コミュニティ ・スクール	積極的に学校公開・情報発信を行うとともに、アンケートや個人面談、学校評価を有効に活用し、教育活動を改善する。	6	1	0	0	6.7 95.9
	3 垣根のない学校	学級経営を協働し、「垣根のない学校」として、誰もが安心して過ごせる、一人一人にとって居心地の良い学校をめざす。	5	2	0	0	6.4 91.8
学力確かな 定着	4 学習習慣・ 学習規律の定着	自ら学びを生かそうとする主体的に学びに向かう力を涵養するとともに、学習習慣を確立する。	3	4	0	0	5.9 83.7
	5 基礎・基本的な 学力の定着	実際の社会や生活で生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得する。	4	3	0	0	6.1 87.8
	6 新たな価値を 創造する力	創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導き、新たな価値を創造することができる資質能力を育成する。	2	5	0	0	5.6 79.6
豊かな 心の醸成	7 自己有用感の 醸成	一人一人の個性を生かし、相互の信頼関係を深める中で、自己の存在価値の認識等、自己有用感を高める。	6	1	0	0	6.7 95.9
	8 認知機能・ 社会性の向上	コグトレ等で認知機能を高め、感情統制、対人スキルを養い、自他共に敬意をもって関係する力を付ける。	2	5	0	0	5.6 79.6
	9 内面に根ざした 道徳性の涵養	人権尊重の精神を基調に、自他を大切に、共によりよく生きるために、児童の内面に根ざした道徳性を育成する。	3	4	0	0	5.9 83.7
健康な 体の育成	10 健康管理 食育の推進	手洗いの徹底、TPOに応じたマスクの着脱など、感染状況を踏まえた新しい生活様式の行動ができる。	3	4	0	0	5.9 83.7
	11 体力・運動能力 の向上	基礎的な体力の向上と運動習慣、生涯に渡って積極的に運動に親しむ資質や能力を高める。	6	1	0	0	6.7 95.9
	12 心の 居場所づくり	一人一人の居場所づくりや心に寄り添う相談など、不登校等、一人で悩みを抱えない相談体制を構築する。	5	2	0	0	6.4 91.8
輝く未来に 向かって	13 言語力の向上	学校図書館の機能の充実を図り、言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力を育成する。	5	2	0	0	6.4 91.8
	14 情報活用力 の向上	1人1台端末やオンライン活用を含め、情報活用力を育成するとともに、新たな解を創造する力を醸成する。	4	3	0	0	6.1 87.8
	15 探究力の向上	教科横断的に各教科等の教育内容を相互に関連付け、配列し、6年間を見通した教育課程全体を往還させる。	4	3	0	0	6.1 87.8



0% 20% 40% 60% 80% 100%



評価委員会からのコメント(抜粋)

・常に子供の安全を最優先している学校の方針に安心感がある。・門扉の施錠が出来ていない時がある。安全管理を図るために徹底したほうがよい。・管理員の配置やオートロック設備など、安全で安心な学校生活を送れるような対応が必要である。

・多様な立場の人たちが集まり、自由に意見を交わす場があり、地域の中の学校としての存在感がある。・学校HPやマチコミメール等を利用した細かい情報公開が出来ていて、保護者の安心、信頼にもつながっている。・楽しい学校生活を送れるように対応すべきである。

・学年担任制、教科担任制の両輪で、一つの枠に縛られない指導体制は、学校を取り巻く大人たちに新たな目を与えている。さらに期待したい。・交流学习は、子供達にとって良い経験となり、自信につながっている。他児理解が広がり、思いやりのある関わりが見られる。

・自主学習ノート等を活用して、学習習慣をつけさせる取り組みに、子供も保護者も同じ思いでいる。・学習の習慣づけは、学校だけでは補えない部分もあると思うので、家庭との連携が必要だと思う。・地域はもとより、家庭や学校で幅広く力をつけることが望ましい。

・授業では、本時のめあて、既習事項を生かす、振り返りなど、基礎学力の定着を図っている。・「授業が分かりやすい」児童が7割を占め、タブレットなど興味ある教具を使用することでより一層割合が上がると思う。・授業はもとより、予習や復習をして、学力をつけてほしい。

・学ぶ楽しさやスタンスを向上させることが大切である。・子供たちの学力には差がある中で、対話を通してよりお互いに学び合う学習を確立させたい。・新たな価値とは何か、もっと具体性がないと、新しい社会の変化とともに、イメージがつかないのではと感じる。

・一人一人の個性を生かした授業を行っている。子供に自分の存在が大事だと思わせている。・運動会や行事において、高学年の係活動を通して、個々が活躍できる場面が自己有用感に繋がっていると思う。今後も個々が輝ける機会の提供を期待したい。

・認知機能に関しては、個人差が見られる分野でもあるので、個々の支援が必要だと感じる。・子供も大人も、様々な捉え方(認知の違い)があるということ、まず知ることから始まり、より良い人間関係を作るきっかけとなっていると思う。今後ますます重要な視点である。

・いろいろなマナーやルールなどを学ぶことが大事。・道徳の授業だけでなく、他教科の授業などでも、子供たちの道徳性を伸ばす指導が必要。・道徳の授業や日常生活において、思いやりの気持ち、善悪の判断を指導する教職員の一貫した関りが求められると思う。

・給食の食材にこだわり、おいしい給食を提供している。・献立の中に郷土料理を入れたり、食に興味を持てる機会を与えていると思う。・健康管理に関しては、特に低学年は、うがい手洗いの励行は、また、担任の継続的な声掛けの支援が必要だと思う。

・校庭が広く、体育、休み時間でものびのびと子供たちが体を使って動いている。体力向上につながる。・元気アップを取り入れたり、児童が参加しやすい取り組みが行われていると思う。中には運動が苦手な児童もいるので、配慮や支援が必要だと思う。

・先生たちがきめ細かく指導してくれていて、子供たちの相談に乗ってくれている。・児童アンケートの中で、高く評価している結果を見ると、安心した学校生活が送れていると見られる。・今後も、好き嫌いをせず、誰とでも話をしたり、運動をするように努めてほしい。

・言葉の教育の大切さを校長先生が掲げ、全校でそれが統一されて活動を行っている。・低学年はボキャブラリーが少ないため、まずはそこからの言語力の充実、支援が必要だと思う。・学年ごとの発達段階にあった短作文や読書感想文の指導は評価できる。

・一人一台のタブレットを活用して授業でも効果的な使い方が見られる。・児童の集計結果では、インターネットルールを守れていると肯定的評価だが、引き続き学校においてもルールの確認は必要だと思う。・パソコンを使い、勉強や思いなどを打つてみるのが大切。

・子供たちは課題追求するとともに、新たな課題に出会っても、また取り組む姿勢を見せていた。・児童が探究学習に興味を持てるよう、主体的に取り組めるよう、さらなる充実を期待したい。・得意なことは伸ばし、苦手なことはチャレンジするなど頑張ることが大事。

前年度	
C	A
A	A
A	B
B	B
A	A
B	A
A	A
B	A
A	C
A	A
A	A
A	A

(人) 7名